



「はじめての古事記 日本の神話」

竹中 淑子／文
根岸 貴子／文
スズキ コージ／絵
徳間書店（1-ハ）

むかしむかし、この世の始めには、まだ天も地もありませんでした。やがて天地が分かると、イザナキという男の神さまと、イザナミという女の神さまがあらわれました。他の神さまたちはよろこんで、二人に地上の国作りを命じます。

子どもから大人まで、わかりやすく親しみやすい、日本の神話の本です。



「はじめての万葉集 上・下」

萩原 昌好／編
中島 梨絵／絵
あすなろ書房（911-マ）



「くにははじまり 日本の神話 第1巻」

赤羽 末吉／絵
舟崎 克彦／文
あかね書房（EAア）

たんだ新聞

号外

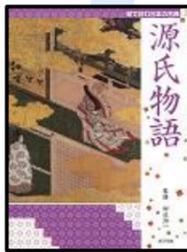
たんだ新聞編集部
〒270-1147
我孫子市若松26-4
我孫子市民図書館
TEL04-7184-1110

いにしえを知る

～神話、昔話、古典文学など～

たんだ新聞とは…

子ども向けに発行している図書館の新聞です。今回、「秋のたよりの合併号として、いにしえの世界を舞台にした子どもの本を紹介します。



「絵で読む日本の古典 2 源氏物語」

田近 洵一／監修
ポプラ社（918-エ）

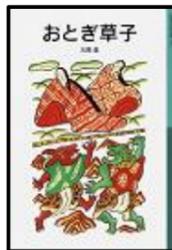
平安時代に書かれた「源氏物語」の名場面を、美しい絵とともに楽しむことができる1冊です。原文、現代語訳、語句の解説やコラムもあり、物語の理解を深めてくれます。



「はちかづきひめ」

長谷川 摂子／再話
中井 智子／絵
福音館書店（EAナ/MEAナ）

子どものないふうふが、毎日かんのん様に「どうか子どもをおさずください」とねがっていました。すると、かんのん様がゆめで「子どもができたら、このはちを頭にかぶせ、決してぬがせてはなりません」と言いました。やがて生まれた女の子にふうふは、はちをかぶせて育てます。



「おとぎ草子」

大岡 信／作
岩波書店（1-オ）

昔から日本で親しまれてきた「おとぎ話」が7つ入っています。「一寸法師」、「浦島太郎」、「鉢かづき」、「酒呑童子」など。



「いっすんぼうし」

いしい ももこ／ぶん
あきの ふく／え
福音館書店
（EAア/MEAア/BEAア）

おじいさんとおばあさんのもとに、親指ほどの小さな男の子が生まれました。男の子は「いっすんぼうし」と名づけられ、かわいがって育てられます。しかし、13才になっても体は大きくなりません。小さくてもできる仕事はないかと、都へ出ていったいっすんぼうしは、お屋敷で姫につかえることに。かしこく、ゆうかな男の子のお話です。

我孫子市民図書館

令和5年10月27日発行

秋のたよ

発行 我孫子市民図書館
〒270-1147
我孫子市若松 26 の 4
電話 04-7184-1110

私のペースで しおりは進む

2023・第77回 読書週間
10/27～11/9



「がんを身近に考えるコーナー」 リニューアルのお知らせ

☆アビスタ本館「がん緩和ケアコーナー」の名称が、「がんを身近に考えるコーナー」に変わりました！改めてこちらのコーナーを紹介します。

利用者の皆さんに、がんについて知り、身近に考えていただくためのコーナーです。アビスタ本館しらべもの窓口の近くにあります。

国立がん研究センターと連携し、がんに関する冊子やパンフレットを置いています。また、がん緩和ケア普及のための地域プロジェクトの一環で、2008年に作成されたブックリスト「緩和ケアを知る 100冊」に掲載されている本をそろえ、貸出しています。

現在、生涯で2人に1人ががんにかかると言われています。近くには闘病記を集めたコーナーもありますので、そちらもあわせてご活用いただき、がんについて考えるきっかけにしてみてください。

アビスタ本館「がんを身近に考えるコーナー」



↓ 検診のすすめのパンフレットを配布しています。



↑ 30種類以上のがんについて書かれた冊子を置いています。



源氏物語

平安時代中期、紫式部によって書かれた54巻(帖)からなる長編小説。天皇の子として生まれた光源氏と、それを取り巻く人々の物語。

『平安男子の元気な!生活』
『平安女子の楽しい!生活』
川村 裕子/著 岩波書店

平安女子の恋の悩みや、平安男子の世渡りのヒケツが知れる! 思ったよりもアクティブかも?

古事記

712年に太安万侶が編纂したとされる、日本最古の歴史書。上巻で創世神話、中・下巻で推古天皇までの歴代天皇を描く。

『古事記の読み方』 坂本 勝/著 岩波書店



古代人はなぜ神を考え出したのか、なぜ天を思えがいたのかなどの疑問から始まり、古事記の時代背景や言葉の特徴などが分かりやすく書かれている。著者の体験とリンクさせた解説で、日本人が親しんできた伝説世界の謎と魅力を生き生きと描き出している。

『六条御息所源氏がたり 1~3』 林 真理子/著 小学館

源氏物語の登場人物である六条御息所は、前東宮妃であり、娘の成長と風雅の道を心の支えに生きていこうと決心していた高貴な人。源氏の君と出会い、「常ならぬ者」の力が目覚めてしまう。古典文学の現代語訳とは違い、著者の解釈を含んだものがたりとして味わうことができる。



『すらすら読める源氏物語』
上・中・下
瀬戸内 寂聴/著 講談社



『日本文学全集 04 源氏物語』上・中・下
角田 光代/訳 河出書房新社

『オールカラー地図と写真でよくわかる!古事記』
山本 明/著 西東社



同時期に完成した歴史書である『日本書紀』との違いを交え、『古事記』のあらすじと「八俣大蛇(やまたのおろち)」など馴染みある神話の伝承地や舞台を、現代の地図と豊富な写真で紹介。神々と天皇の系図や時代背景の解説もあり、古代史の入門編として読みやすい。巻頭には神々を祀る神社や各地に残る倭建命伝説の所在地の紹介があり、旅行ガイドにもなる。

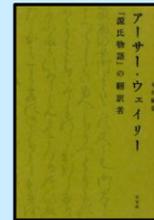
『「源氏物語」の男たち』
田辺 聖子/著 岩波書店



独自のセンスと解釈で現代語訳し『新源氏物語』を著した著者が、主人公光源氏と息子夕霧を中心に、男たちに焦点を当てて書き上げたもの。女性たちとの関係はもちろん、様々な場面を例にあげて、男たちの感情と行動を考察していく。王朝時代の男たちが、人間味あふれる身近な存在に感じられる。

『アーサー・ウェイリー』 平川 祐弘/著 白水社

『源氏物語』や中国詩を訳したイギリス人東洋学者「アーサー・ウェイリー」の評伝。20世紀初め、西洋で認められていなかった東洋古典を翻訳し、世界文学の中央に登場させた。英訳と原文の比較や出版当時の時代背景、世界文学の中の『源氏物語』など、様々な観点からアーサー・ウェイリーの翻訳の素晴らしさを知ることができる一冊。



『図説古事記』
石井 正己/著 篠山 紀信/写真 河出書房新社

『日本の古典をよむ1 古事記』
山口 佳紀・神野志 隆光/校訂・訳 小学館

『楽しい古事記』 阿刀田 高/著
KADOKAWA (角川文庫)



古代日本の神々が、嫉妬に狂ったり、わがままを言ったり。人間味あふれる神さまたちの描写に、親近感が湧いてくる。古事記は難しそう・・・と思っている方、肩の力を抜いて、まずはこの本を読んでみては。

古典を楽しむ

古典文学作品には、昔も今も変わらないと感じられる描写がたくさん出てくることを知っていますか。この秋、先人たちの考えに触れ、現代社会を生きる上でのヒントを見つけてみませんか。今回は、異なるジャンルの4作品を紹介します。

『万葉集を読む』 佐佐木 幸綱/著 岩波書店

万葉集の歌が、当時どのような場でどのような意味をもって歌われていたのか。歌の中から旅の歌、東歌、挽歌、<女歌>をとりあげ、律令制度に移行したことによる社会の変化、階級、地域、性差などの背景をこまやかに解説しながら読み解いていく。市民向けの講座、講演をもとに平易な言葉であらわされた万葉集の入門書。



徒然草

鎌倉時代末期、兼好法師によって書かれた243段からなる随筆。自身の経験から得た考えや逸話などが書き綴られている。

『「徒然草」的生き方』 江坂 彰/著 PHP研究所

吉田兼好は、鎌倉時代の終わり頃から南北朝時代という乱世に生きた人である。若い頃、朝廷に仕えるが三十歳頃に華やかな宮廷生活から身をひき出家し、随筆『徒然草』を書いた。一方、著者は、役員目前の企業戦士であったが突然左遷されるという憂き目にあう。後に、経営評論家として独立するが、その体験を兼好法師の徒然草と重ねて、現在の私達へ、生き方の知恵として語っている。



『使える!「徒然草」』 齋藤 孝/著 PHP研究所

吉田兼好が残した随筆には、自然・人生・社会などの事柄がある。著者はこれらの随筆を「集中力を高める」「眼力をつける」「嫌な気分を整理する方法」など項目に分け、生きるためのヒントやビジネスでの考え方に役立つとして紹介している。兼好の鋭い視線やユーモアがわかり読み方の視点が変わる一冊。



万葉集

7世紀後半から8世紀後半にかけて編纂された、現存する日本最古の和歌集。約4500首の、幅広い身分の人が詠んだ歌が収められている。

『新装版 万葉の歌びとたち 万葉読本II』 中西 進/著
KADOKAWA (角川選書)



万葉集の代表的歌人と言われる「柿本人麻呂」は、日本書紀、中国の文献等を参考に、祭祀の家の子や皇女の死に際しては壮大な長歌を歌っている。また、「山上憶良」は唐と連合した新羅に滅ぼされた百濟からの渡来人であったなど、歌人の人生を思いながら、改めて万葉集を読んでみたくなる。

『万葉歌とめぐる野歩き植物ガイド 秋~冬』
山田 隆彦・山津 京子/著 太郎次郎社エディタス

『楽しくわかる万葉集』 中西 進/監修 ナツメ社

『日本の古典をよむ4 万葉集』 小島 憲之・木下 正俊・東野 治之/校訂・訳 小学館



『物語の舞台を歩く 徒然草』
久保田 淳/著 山川出版社

『徒然草』 兼好法師/著 小川 剛生/訳注
KADOKAWA (角川ソフィア文庫)

